

606)湯たんぽ

小生はあいにく低血圧の冷え性で、冬になるとバッチャンからプレゼントされた『湯たんぽ』を愛用している。その晩は結構冷えてきたので、群馬県甘楽郡南牧村(カンラグンナンモクムラ)特性の厚い毛糸の靴下を履いて寝ることにした。湯たんぽといえども最初のうちは結構熱い。この靴下を履いているとその暑さを遮断できる上、朝方さらに冷えてきても足まで冷えることはないからである。

さてその晩は、夜中に目が覚めてトイレに起きたところ、なぜか爪先のあたりが、ちょいとおそろいしている。しかし気にせず、また寝入ってしまった。そして朝方目が冷めると、どうも足元のあたりがおかしい。毛糸の厚手の靴下の感触はあるものの、更なる違和感があるのだ。おまけに湯たんぽがなかなか見つからない。足で探してみると不思議な違和感がある。おまけに猫が湯たんぽの上に寝ているようで、やけに重い。それで起き出して見ると、いつもトイレに履いてゆくスリッパがない。おかしいなと思って、あたりを探したが見つからない。が、それで分かった。スリッパまで履いて寝ていたのである。脱げたスリッパが湯たんぽの隣に鎮座していた。